

学校推薦型選抜 地域貢献人材発掘枠 「総合問題」

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

注意事項

- 1 解答は全て解答用紙に記入してください。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 3 不正行為について
 - ① 不正行為については厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験をとりやめさせ退室させます。
- 4 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題1 以下の文章を読んで、設問1～4に答えなさい。

「読む」のは、聞く、とも、見る、とも違う活動である。「読む」のは、視覚で受けた刺激^{しげき}*を、一度、聴覚イメージに (a) テンカンし、それをさらに意味へと結合する作業で、高度の訓練を要する(音読では、視覚イメージから聴覚イメージへの (a) テンカンが省かれるだけ、より容易な読み方ということになる)。

字をひろって声に出すだけでは、まだ読むことにはならない。文字から高度の意味を読みとる作業が「読む」活動の眼目であるとすれば、教育を受けた人々の中でも、「読む」ことのできていない人がいることも考えられる。

—中略—

刺激^{しげき}は好むと好まざるとを問わず、一様に人間の感覚に影響を与えるように考えられるが、受けとる人間の状態によって、反応は違ったものになる。反応は刺激^{しげき}そのもののもっている力と、それを受ける感覚の識別力との (ア) 相乗の結果であると思われる。

ものごとにひどく熱中していると、外界から別に刺激^{しげき}の入って来ることを欲しない、あるいは、入って来ることを (b) コバむ。そういうときは、いかに大きな刺激^{しげき}が外界から与えられても刺激^{しげき}と感じられないことがある。

「読む」ときに人間の眼が受けている刺激^{しげき}は、たとえば聴覚的刺激^{しげき}に比べて、間接的であるだけに、より微弱であると言ってよい。読む側がよほどつよい識別機能をはたらかせていないと、印刷された活字の文字をほかの刺激^{しげき}から選りわけて、必要な印象を得ることはできない。読むむずかしさも、結局、この高度の識別力の行使、微妙な刺激^{しげき}に反応する感覚の訓練ということに帰する。それが伴わない「読み」は、いたずらに活字に眼をさらすだけのことになる。

耳から聞いてわかっていても、文字に書かれた場合、よくわからぬことがあったり、逆に、聞いてわからなかったことが、読んでわかることがあるのも、要するに、聞くと読むとでは、はたらく識別力がちがう。しかし、概して、読む方がより大きなエネルギーを要する識別を前提としている。

一般に、刺激^{しげき}が小さくなればなるほど、それを捕えようとする感覚の緊張度は高くならなければならない。この識別という力があるために、読んだものがバラバラにならないで、一つ一つがある枠の中へまとめられることになる。このまとまりがコンテキストである。

一つ一つのことばには、可能ないくつもの意味が含まれているのが普通である。そういうことばの連続である文章を読み、個々のことばのもつ意味群から求められている一つの、あるいはいくつかの意味を選び出し、それを先行する表現の意味と連絡させる——そういう作業も知覚の選別による。

* 「刺激^{しげき}」は「刺激」と同じ意味である。

コンテキストは、そのようにして選出された意味の(イ)堆積である。そしてコンテキストが形成されると、一見バラバラのものまでもまとまる傾向をもつ。一冊の本を、読み返し、読み返ししながら、何日もかかって読むときにも、われわれはその本に対して統一ある印象をもつことができる。途中で読書以外の実にさまざまな活動がはさまっていても、読書の印象とは(c) コンドウしない。選別が(d) キセイしているからである。

さらに、読みにおいて、われわれは表現のすべてを受けとっているのではなく、めいめいが選択をし、ふるいにかかったものだけを感じているにすぎない。読みとは、表現から妥当な部分を抽出して、コンテキスト化して行く活動で、つねに解釈の問題が介入する。

「読む」ということばが「解釈する」という意味で使われることがあるのは故なしとしないわけである。読むのは、話を聞くことなどに比べて、前述したように、より高度の受容者側の積極性を必要とするだけに、解釈に左右されることもそれだけ多い。「聞く」が「解釈する」を意味しないのに、「読む」が「解釈する」ことになる所以である。白昼、ススキの穂をほかのものと見誤る人間はまずいないであろうが、暗いところでは、見る人の^{あらかじ}予めもっているコンテキストいかんによっては、幽霊に見えることもないではない。

この^{かれおぼな}枯尾花幽霊の例のように、受容者側の積極的解釈がつよいと、主観にもとづく誤解が生じやすくなる。枯尾花幽霊のような(ウ) 極端なものは少ないとしても、およそ、すべての「読む」活動には、誤解が含まれる。誤解のまったくない「読み」はないと言ってよい。

—中略—

「読む」と言うと、とにかく、受動一方の作業のように考えるのは正しくない。すでに見たとおり、解釈の加わる積極的な精神の活動だからである。

さらに、「読む」のは、文字表現をたどって、そこにある意味を汲みだけの(e) チュウジツな(エ) 模倣であると考えられやすいが、これもまた当たっていない。むしろ、選択を通じたクリエイティヴな活動であることにこそ着目すべきである。

「読む」ことが受動的(エ) 模倣的活動であるかのように感じられているところに、「読む」機能のゆがみがあり、より高度の読みを(f) サマタげている原因があるように思われる。

出典：外山滋比古 著；ものの見方 思考の実技，株式会社PHP研究所，2010，51-62 頁，
一部改変

設問1 下線部（a）～（f）のカタカナを漢字に直しなさい。

設問2 下線部（ア）～（エ）の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

設問3 「読む」活動に誤解が含まれる理由について、筆者の考えをすべて記述しなさい。

設問4 筆者の述べている積極的な精神の活動としての「読む」という行為とは、どのようなことであるとあなたは考えますか。300字以内で述べなさい。

問題2 次の英文を読んで、設問1～5に答えなさい。

I visited beverage giant Kirin Holdings Co.'s headquarters in Tokyo, the company behind the sorcery. After being asked to try miso soup, I took a sip that was poured into a bowl. It tasted a little bland and nothing special. Next, I was told to turn (ア) the power on the bowl, which I did and took another sip. It clearly tasted saltier and was just perfect for me.

What had happened? Kirin developer Ai Sato kindly explained, "Your taste buds have not changed. We use the power of electricity to control the movement of sodium ions in the miso soup, making it easier to sense saltiness."

Sato is a researcher at the company's health science division. The development of "①magic tableware" dates back to about five years ago. At the time, she was working on another research project in collaboration with a university hospital, and heard doctors and nurses complain that even though they instructed their patients to reduce salt intake, it was hard to get them to continue eating lightly flavored meals.

(中略)

Excessive salt intake can cause various diseases including high blood pressure. However, reduced-salt menus are somehow tasteless. How can we cut the amount (イ) salt while not sacrificing the "deliciousness" of the meal? While searching for a solution, Sato came across the latest technology called "electric (A)," which uses the power of electricity to change the way people perceive taste.

At the end of 2018, Sato visited the laboratory of professor Homei Miyashita at Meiji University. Miyashita is known (ウ) a leader in "electric (A)" research, and after approaching him for cooperation, a full-scale joint research project began in 2019.

The outcome was "magic tableware." The current prototypes come in two shapes: a bowl and a spoon. Both allow the user to enjoy the electrically stimulated taste (エ) simply holding them, which naturally brings the user's hand into contact with the electrodes.

The product has been well received, and when 31 people undergoing salt reduction treatment tested the products, 29 responded that they increased the salty taste. Kirin has named the technology "Erekisoruto," a portmanteau of "electric" and "salt," and it is in the final stages of development for commercialization.

"②Not only does Erekisoruto enhance saltiness, but it also makes it easier to perceive umami and acidity as well," Sato said. With the exception of foods with low water content, such as bread, "I think you will taste the difference in about 30 to 50% of meals you normally eat," she added.

In addition to miso soup, the taste of ramen noodles, curry and other dishes can be enhanced, making dietary therapy much easier to follow.

(中略)

Sato has high expectations (オ) the future of the technology. "In addition to health-related aspects like dietary therapy, salt reduction is also a major challenge for the beauty and sports industries," she said. "I hope that Erekisoruto will become a catalyst for people to easily reduce their salt intake."

(後略)

出典： Kiyohiro Akama, The Mainichi, January 21, 2023 一部改変

<https://mainichi.jp/articles/20230117/k00/00m/020/143000c> (2023 年 8 月 29 日アクセス)

注) Kirin Holdings Co.'s headquarters キリンホールディングス本社, bland 淡白な, sip 一口

Kirin developer キリンの開発者, taste bud ^{みらい} 味蕾, sodium ions ナトリウムイオン,

the company's health science division 本社健康科学部, intake 摂取,

high blood pressure 高血圧, perceive 知覚する, prototype プロトタイプ,

stimulate 刺激する, electrode 電極, Ereisoruto エレキソルト(造語),

portmanteau 合成語, acidity 酸味, dietary therapy 食事療法, catalyst きっかけ

設問1 (ア)～(オ)に入る最も適切な単語を、下から1つずつ選び、その単語を解答欄に書きなさい。

for near as of by from on after to until

設問2 佐藤氏が下線部①の開発を考えたきっかけは何か、日本語で説明しなさい。

設問3 (A)に入る最も適切な語句を1つ選び、その記号を解答欄に書きなさい。

ア. sight

イ. taste

ウ. smell

エ. touch

設問4 現在ある魔法の食器はどのような形状が存在するのか、日本語で答えなさい。

設問5 下線部②を日本語に訳しなさい。

令和6年度 山口県立大学
看護栄養学部看護学科
学校推薦型選抜 地域貢献人材発掘枠「総合問題」 出題意図

【国語】

国語の問題文は、外山滋比古「ものの見方 思考の実技」の中の一部である。「読む」という活動について論じている。筆者は、「読む」活動は読み手が文字から高度の意味を読み取る作業で、表現のすべてを受け取っているのではなく、選択し解釈するため、誤解が含まれると述べている。

設問1、2では漢字の知識から国語の基礎的な学力をみる。

設問3では、この文章を正確に読み取る読解力を評価する。

設問4では、自身の考えを述べる論理的思考力および制限字数内で文章を記述する表現力を評価する。

【英語】

問題文は、「Kiyohiro Akama, The Mainichi, January 21, 2023」からの出題である。

ある程度の分量で明確な論旨と構成を持った英文を読み、その要点を読み取ることができるかどうかをみる問題である。受験生には、高等学校における英語の授業内容を適切に習得し、英語文献を読み、理解するための基本的な英語の力が備わっているかを問うものである。